

第1学年 図画工作科学学習指導案

H. 18. 7. 21 (金) 徳島県立近代美術館 (於)

学習者 徳島市富田小学校1年1組児童25名

指導者 徳島市富田小学校教諭 濱口 由美

徳島県立近代美術館学芸員 竹内 利夫

1. 単元 はじめまして どっきどき☆ドン美術館

2. 単元について

(1)美術鑑賞と子どもたち

本学級の子どもたちは、5月から「きらきら☆どっきどきドン1年生」①という学習単元を立ち上げ、「版遊び」「宇宙」「コミュニケーション」をキーワードとして、様々な造形活動に取り組んできている。この単元に託した願いを実現すべき単元構想へのヒントをもたらせたのは、徳島県出身の版画家「吹田文明」。

石ころのなかで埋もれていたガラス破片に美しさを見つけ、校庭に舞い落ちたさくらの花びらをひとつひとつ拾い集める子どもたち。いつも万華鏡ののぞき穴からでもみているかのごとく様々なモノに光を見いだすことのできる1年生の子どもたちである。

宇宙や星・花火などの主題を通し自身の表現世界を拓いてきた吹田さんの作品集をはじめて見たときも、小さな万華鏡のなかに無限に広がっていく幻想世界を感じた。そして子どもたちにとっても、わくわくどきどきのチャレンジ精神を抱かせてくれる大きな宙があることを感じ、9月に開かれる『吹田文明展』の鑑賞体験を見通しながら「6. 25ぼくらの星が生まれたよ」「こんにちは、宇宙のともだち」「宇宙への旅にでかけよう」などの版遊びを取り入れた造形活動に取り組んできている。

本格的な美術作品の鑑賞活動はまだ行ってはいないが、吹田さんの2枚の作品を単元活動「きらきら☆どっきどきドン1年生」の導入時に持ち込んだことが、予告編的な鑑賞体験となったかもしれない。「こんにちは、よろしく」のあいさつができればいいなど考えて設定したわずかな出会いの場であったが、宇宙の光を描いた作品にいつか見たことのある宝石箱や顕微鏡の輝きを重ねる子どもがいた。自由に線をたどり「かえる」や「かに」などの生き物を探し出してくる子らもいた。1年生の子どもたちにしか見ることのできない鑑賞世界が確かにあると感じ、これからの造形活動や『吹田文明展』での実物鑑賞への期待を抱かせてくれた。

(2)クレーシート②と『はじめまして どっきどき☆ドン美術館』について

低学年児童の活用も意識して開発されたクレーシートには、P1の「線と色でお話しよう」のような道しるべ的な表現活動やP2-3の「お話づくり」や「名前つけ」のような表現的鑑賞活動が導入されている。

本単元『はじめましてどっきどき☆美術館』は、このクレーシートの表現的鑑賞活動（鑑賞遊び）を単元の核として活動に取り組むことにした。

まずは、初めての美術館見学への期待を抱かせるために、『なぞなぞ美術館』を開催することにした。「美術館のポスターは、どれでしょう。」から始まるこの活動は、美術館への楽しいイメージを膨らませると同時に、本単元で子どもたちに習得させたい鑑賞遊びである「作品なぞなぞ」への伏線的な働きかけも含んでいる。なぞなぞからイメージを膨らませた美術館は、「たくさんのどつきどきがあるところ」とますます好奇心を抱かせてくれるであろう。

公開授業Ⅰとなる『宇宙から天使がやってきた』は、クレーシートP3に載せている『5天使』の作品を取り上げた学校での鑑賞活動である。ここでは、昨年度の3年生がクレー作品との対話から生み出した「天使の絵本」から「天使なぞなぞ」を出題し、作品との対話を楽しませたい。3年生たちがつくった詩は、天使たちの背景を想像した、こころの叫びのような内面的な心情を読み取ったものが多い。天使のしぐさや面影に、いつかの自分を投影させたのかもしれない。これらの詩を聞きながら作品を見つめることで、1年生にもこれまでの経験と重ね合わせた鑑賞活動が生まれてくることを期待したい。そして、自分自身でも、天使のつぶやきから「天使なぞなぞ」をつくったり「天使の名前」をプレゼントしたりして、主体的に作品と関わっていくことの楽しさを味わわせたい。

公開授業Ⅱ『星から星へおしゃべりの旅』は、クレーシートP2に載せている『子供と伯母』の実物作品と対面する美術館での鑑賞活動である。前時の活動で経験してきた「なぞなぞ」をツールとして活かし、クレー作品の様々な線と色から「形なぞなぞ」を交換し合うコミュニケーションの場を作りたい。線と色に自らが意味を見出していく行為に自信を持って取り組もうとする姿を期待する。実物だから見つけることのできる特徴や、広い展示室で多彩な作品群と出会える場の独特の雰囲気など、実物鑑賞ならではの楽しさや驚きを満喫できるように支援したい。そのためにも、陳列作品の一つ一つに自分が向き合うという、美術館という場の意味を納得できるように働きかけることは大切である。本時では、「宇宙・旅」という日々の活動になじみのあるキーワードに観覧散歩を見立てて、能動的な活動を励ましたいと考えている。

本単元の活動を通して、子どもたちの活動目標としてきた「作品なぞなぞ」は、クレーシートに盛り込んだ表現的鑑賞活動（鑑賞遊び）と同じねらい（作品を媒介とする鑑賞遊びを通して、自己の内的世界を探求し新たな自分を発見していく）を持っている。また、「作品なぞなぞ」という交換・交感の場が生まれる鑑賞遊びは、1年生たちが自分らしい見方や感じ方に自信を持つことができるだけでなく、友達の考えにも寄り添っていくことができるような共感的な鑑賞活動へと繋がるであろう。9月の『吹田文明展』でも、本単元で身に付けるであろう鑑賞遊び「作品なぞなぞ」のツールをつかって、主体的に作品と関わっていこうとする1年生たちのいきいきした姿があることを夢に描いている。

また、本単元は、授業目標を共有しながら、指導者としての教員と学芸員、活動場としての学校と美術館、それぞれの役割と場所を生かすことができるように単元の構成を考えた。しかし、学芸員が指導者となる美術館授業では、担任教員の支援や働きかけがやはり必要であり大きな意味をもつ。子どもたちが日々の好奇心や自己達成感を思い出し教室でのペースをつかめるように配慮することで、さらにどつきどきの探求心が膨らむことであろう。

註

- ①『きらきら☆どっきどきドン1年生』は、本年度の学年目標でもあり、現在進行中の図工科を核とした合科的な学習活動の単元名でもある。学校という新しい世界の中へ飛び込んできた1年生たちの眼差しを象徴しているネーミングでもある。また、そこにはびかびかのランドセルや真っ白な運動靴より輝いている1年生の夢を一つ一つ実現できるように活動の場を誕生させることを願う指導者の思いも込めている。学習単元『きらきら☆どっきどきドン1年生』では、子どもたちが全身を使って材料とふれあうことのできる版遊びをできるだけたくさん取り入れて活動している。
- ②「クレーシート」は、『鑑賞シートNo.4 パウル・クレー「子供と伯母」』の略称である。児童に資料として配布する「クレーシート」は、学校と美術館を結ぶ鑑賞教育を実践的に研究するための研究会「徳島県立近代美術館鑑賞教育推進プロジェクト」で作成されたものである。

3. 単元の目標

- ① クレー作品と楽しくお話をしたり、マナーを守って美術館でのいろいろな作品を楽しく見たりすることができる。
- ② 「作品なぞなぞ」や「お名前プレゼント」の遊びをしながら、自分が発見したり感じたりしたことを伝えることができる。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	クレーの作品と楽しくお話をしたり、マナーを守って美術館でのいろいろな作品を見たりしている。
鑑賞	クレー作品を見て、自分が発見したり感じたりしたことを、「なぞなぞ遊び」や「お名前プレゼント」にして伝えている。

5. 学習計画 全3時間

- 第1次 なぞなぞ美術館・・・・・・・・・・1時間
- 第2次 宇宙から天使がやってきた・・・・・・・・1時間（公開授業Ⅰ）
- 第3次 星から星へおしゃべりの旅・・・・・・・・1時間（公開授業Ⅱ）

6. 公開授業 I の学習

(1)目標

- ① 3年生の詩からつくった「天使なぞなぞ」を聞きながら、楽しくクレーの天使作品とお話をしようとする。
- ② 天使のつぶやきを想像しながら、「天使なぞなぞ」や「お名前プレゼント」を考えることができる。

(2)展開

学習活動	指導上の留意事項	具体的な評価規準	評価方法
1 宇宙からやってきた「クレーの天使たち」と対面をする。	○ジェスチャーで「天使なぞなぞ」をし、5天使に親しみをもたせる。 ○5人の天使たちと出会った第一印象が自由に話せるようにする。		
2 3年生のつくった天使の絵本をもとにした「天使なぞなぞ」を聞きながら、5天使とのおしゃべりを深める。	○同じ天使からのつぶやきを「天使なぞなぞ」にして出題をする。 ○ひとりひとり見方や感じ方が違うことを感じとらせる。	B鑑賞(1) ア(造形への関心・意欲・態度) 「天使なぞなぞ」の答えを探しながら、5天使と楽しくおしゃべりしようとしている。	観察 対話 発言 メール
3 気になる天使の声を聞き、名前をプレゼントする。	○天使のつぶやきが聞こえてきた児童に「作品なぞなぞ」として発表させる。 ○天使のつぶやきからも、名前のプレゼントができることを理解させる。	B鑑賞 エ(鑑賞の能力) 天使のつぶやきをききながら、「お名前プレゼント」を考えている。	観察 発言 名前カード
4 美術作品がたくさん待っている宇宙(展示室)へ行くことを知る。	○美術館にはクレーの実物作品があることや他にもたくさんの絵や彫刻があることを知らせる。		

(3) 評価及び指導（手だて）

ア	(A) と判断される具体的な状況	積極的に「天使なぞなぞ」の答えを考えたり、天使たちのおしゃべりを深めていこうとしたりしている。
	(B) と判断される状況を実現するための指導	ジェスチャーや3年生の詩から作った「天使なぞなぞ」を出題し、見る視点を楽しく与えることで絵とおしゃべりが進められるようにする。
エ	(A) と判断される具体的な状況	聞こえてきた天使のつぶやきを「天使なぞなぞ」にして積極的に発表したり、天使たちの対話から共感的に考えた「お名前プレゼント」をしたりしている。
	(B) と判断される状況を実現するための指導	友達や3年生に聞こえてきた天使のつぶやきをヒントにして、名前を考えてもよいことを知らせる。

7. 公開授業Ⅱの学習

(1)目標

①線や色から生まれる「形なぞなぞ」を聞いたりつくったりして、『子供と伯母』の作品と楽しくお話をすることができる。

②美術館での鑑賞マナーを守りながら、いろいろな作品を楽しく見ることができる。

(2)展開

学習活動	指導上の留意事項	具体的な評価規準	評価方法
1 あちこちに星々（作品）が待っている宇宙（展示室）への旅に出発する。	○美術館見学を宇宙への旅と称して出航式を行い、よい意味での緊張と期待を抱かせる。 ○入室に際しての鑑賞マナーや、活動の目的をはっきり伝えておく。		
2 最初の停車星を見つけ、その星（作品）とおしゃべりをする。	○停車星となる作品の説明を先にしておき、自分たちでその星（作品）を探して行くことができるようにする。		
3 次の停車星について、星（作品『子供と伯母』）とおしゃべりをする。 ☆クレーの線と色から「形なぞなぞ」を考えて意見交流する。	○「天使なぞなぞ」を活かして、作品との対話が進められるようにする。 ○なぞなぞを聞きながら、友達の見方に関心を持たせる。	B鑑賞(1) エ（鑑賞の能力） 「形なぞなぞ」を聞いたりつくったりしながら、『子供と伯母』の作品と楽しくお話している。	観察 発言
4 ひとり旅に出かけ、いいなと思った星（作品）を見つけ、楽しくおしゃべりをする。	○素朴な着眼や発言の全てに価値があると納得できるように、指導者は共感的に一緒に見て聞く。 ○エンジンのかからない子には逆向きに、指導者のなぞなぞや疑問や発見の聞き役になってもらう。	B鑑賞(1) ア（造形への関心・意欲・態度） マナーを守りながらいろいろな作品を楽しく見ている。	観察 対話 メール

(3) 評価及び指導（手だて）

エ	(A) と判断される具体的な状況	クレーの線と色に自分なりの意味を与えながら、意欲的に「形なぞなぞ」を聞いたりつくったりしている。
	(B) と判断される状況を実現するための指導	絵を見て発せられた意見に、指導者が耳を傾けながら絵を見直すように行動し、絵を介したおしゃべりが楽しいとわかるように示す。
ア	(A) と判断される具体的な状況	興味や疑問を持って、いろいろな作品を能動的に見ている。
	(B) と判断される状況を実現するための指導	指導者も子どもたちの発言に共感しながら作品を見て回ったり一緒になぞなぞ遊びをしたりし、作品鑑賞の楽しさを身をもって示す。